

子どもの育ち・遊び・学びを支える取組を！

■子育て子育て・学校教育■学校や公共施設の休業に伴い、子育ての孤立化や家族関係が煮詰まりやすい状況が続いている。子育て家庭の把握や見守りとともに、子どもが主体的に考えられるよう伴奏型のサポートを求める。子どもの遊び場・親子の居場所であるプレイステーションや青空ひろば、親子ひろば等は不安や悩みを受け止める役割もあるため優先的に事業継続すべき。対策本部の方針をふまえ利用者の視点でできる対応をする。岩永一斉授業の形態を含めて今後の教育のあり方を考える機会とすべき。国や都に少人数学級にむけた環境整備と人員配置を要望するとともに、市の方針を持ち進めてい

ただきたい。岩永「今後も国や都へ働きかける。岩永」休校明けの登校を待ち望む一方で不安の声もある。子どもの様子に細かく目を配り差別や偏見について話し合う場を持つ等、学校が安心できる場であり続ける取組を。あわせて不登校対応としてトライルーム分室は必須だが、開始の時期は？岩永「準備を進めている。岩永」家庭学習は家庭環境にも左右される他、学童で過ごす子どももいる。オンライン学習のメリットも活用しつつ体験も含め、個々に合わせた学びの保障を。岩永「機器の貸出し等の準備も進め活用の研究を深める。」

■図書館■外出自粛期間中でもできるだけ開館し、市民が本と触れ合える環境が必要。加えて本

無会派(国分寺・生活者ネットワーク)
岩永 康代



の宅配等アウトリーチサービスの拡充を。岩永「先進的な取組も参考に効果的な施策を検討する。岩永」子育て世代の利用を増やすため、休館日に親子が気兼ねなく図書館を利用できる「親子スペシャルデー」の実施を。岩永「非常に有効と考える。」

◆その他、命と暮らしを守ることを最優先に、生活保護制度の周知、生活困窮者の窓口体制の増強と納税・子育て・教育部署等との連携強化、地域防災計画における医師会と連携した感染症対策と職員研修の実施、避難所での感染症対策として段ボールベッドの備蓄の追加等を求めた。

コロナ以外の病気や感染防止対策も着実に

新型コロナウイルス感染症拡大防止について

1、市民要望に応える市立図書館の在り方

問) コロナ禍での外出自粛在宅疲れの心を潤す読書は有用。電子書籍の普及や予約窓口での受け渡し等新しい貸し出し方法や書籍の感染防止対策など検討を。

市) 新たな貸し出し方法や感染防止の対策と共に国分寺市の図書館の特徴である、歩いて行ける中学校区毎に同規模1館の利点を生かし防災の視点なども含め市民要望に応じていきたい。

2、コロナ禍での市民の健康診査について

問) 他の病気の早期発見治療には適切な時期の検診が重要。市民や子ども達の命と健康を守る

為の体制を整えると共に、乳幼児健診では個別受診者に費用助成等安心して受診出来る体制を。

市) 希望者には費用助成する。高齢者のフレイル健診コーラルフレイルの取り組みも進めたい。

教育) 文科省から年度末までに可能な限り速やかに実施をと通知あり。心臓や腎臓検診をはじめ子ども達が密集しない実施方法を調整し行う。

問) 市境住民待望の立川市内医療機関での検診について長年要望してきたが進捗があったと聞く。市報やホームページ等で情報提供周知を。

市) 立川市医師会と契約が整い今年度から立川市内37医療機関で受診可能となり周知していく。

3、感染を懸念した予防接種控えについて

公明党
高橋 りょう子



問) 乳幼児は母親からの免疫力が徐々に低下し他の病気の危険性に曝される為できる限り予定通り受診をと提唱される。市の見解取り組みは。又妊婦胎児を守る風疹予防接種の着実な推進を。

市) 適切な時期に受診頂けるよう推進し、風疹は集団免疫の観点から引き続き接種勧奨を図る。

問) 高齢者は肺炎にかかると重篤化しやすい為肺炎球菌ワクチン接種が有効と。着実な推進を。

市) 市独自の取り組みで定期接種以外の年齢の方にも受診を可能にした。医師会とも連携し安心して接種できるよう体制を整え推進する。

戸倉公園／コロナ対策の消毒液確保にむけて

☆都市計画公園「戸倉公園」の進捗状況

市) 都と市区町が改定作業を行っている「都市計画公園・緑地の整備方針」の「優先整備区域」に「戸倉公園」が位置づけられる見込み。

星) 方針の改定後、都からの整備許可を経て公園完成まで、どのくらいの期間を要すると考えるか。

市) 都の許可を取得できれば、そこから3～4年が通常のケース。公園の全体像をどう考えるのか。部分的な整備を進めるのか。公共施設を併設する公園とするのか。許可申請前に整理すべき課題は多く、完成の時間はまだ読めない。

☆賃金・雇用保障による市民サービスの向上へ

星) 事業者が担っている公共施設(民間委託・指定管理)について。市が事業者を支払う運営・事業費であるが、コロナに伴う休館・休校中の分については、現在、協議が行われていると聞いている。施設で働く職員(正規・非正規)の賃金・雇用を事業者がしっかり保障できる観点からの協議をお願いしたい。それが、再開後の市民サービスの堅持・向上につながる。

市) 指摘は重要と考える。丁寧な協議を行う。

☆新型コロナ感染防御の消毒液確保にむけて

星) 病院、高齢者・障がい者施設、保育園、小中学校では、消毒液を確保できているのか。

市) 市は必要に応じて支援している。

国分寺政策市民フォーラム
星 いつろう



星) 「消毒剤となる微酸性電解水(次亜塩素酸水)の生成装置を市で購入し、必要としている施設・市民に無料で配布を」。地域の方よりこの提案をいただいたので、要望を行う予定だった。そんな時に「経済産業省は次亜塩素酸水の新型コロナへの効果の検証を継続する」とのニュースが流れた。6月中に効果の結論がでるとのことなので、今回は提案を見合わせる。

市) 感染症対策の長期化を見据えなければならぬ。次亜塩素酸水の効果検証については、市としても情報収集していきたい。

市民活動を支援する行政に期待を！

◆青色回転灯搭載車両による防犯パトロール

問) 市の青色回転灯搭載車両は何台か。市) 33台、市民の防犯意識の高まりや一定の効果がある。問) 「本多連合町会」は、平成24年から本多公民館の青色回転灯搭載車両を借用し、本多地域の防犯パトロールを実施。市内他に実施している町会・自治会は。市) 他になし。要望) 平成30年頃から、市に拡声器を取り付けて頂き「戸締り・火の元」呼び掛けを行い巡回。放送運行には警察への許可が必要で、15日単位で申請、許可を得て実施。毎年実施している事業なので、年間を通して許可をと根気強く警視庁へ要望し、3か月の許可がでた。手続きを簡素化

し防犯活動が継続できるよう、市に対してこの状況のご理解、ご支援をお願いしたい。

◆新型コロナ感染症対策に係る市民団体等との連携と今後の取組み 問) コロナ感染症対策のこの間に市民団体から活動の連絡や相談は。市) 協働コミュニティ課、連絡相談なし。(市民団体等の活動紹介) 本多のある老人クラブ、「老人会だより」発行、だよりで安否確認。東元町の町内会、運動不足にならないよう体操。育児支援のファミリーサロン、事業も休業し利用者の方へ通信をポスティング。市と協働運営の親子ひろば団体、オンラインひろばを開催。内藤地域センター図書室運営ボランティア団体、

国分寺政策市民フォーラム
はせば 豊子



対策をメンバーと十分話し合う。高齢者のフレイル予防で集いの場、休止状態で市から休止の求めや再開に関して何もなし。民生児童委員、心配な高齢者家庭には洗濯物確認で見守り。市民の方、マスク作って寄付をしたいとボランティアセンターに相談し、マスク作り募集が実現。市) 市民の発意に基づいた活動を支援し、活性化させていくことは市民活動センターの大きな役割の一つ。公民館は地域の拠点で、地域福祉とか地域コミュニティの分野と連携し地域を支えていく、活動をさらに展開させていきたい。